

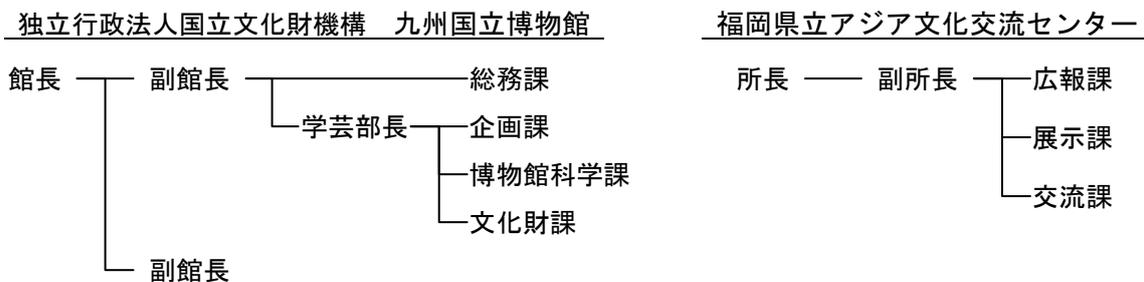
機関名	所在地と立地時期	機関の類型
(独) 国立文化財機構九州国立博物館	福岡県太宰府市 (平成 17 年)	教育・研究
<p><業務内容> (独) 国立文化財機構 九州国立博物館と福岡県立アジア文化交流センターが連携・協力し一体として管理運営</p> <p>(独) 国立文化財機構九州国立博物館：主に、展示機能及び博物館科学（文化財の保存修復）機能</p> <p>福岡県立アジア文化交流センター：情報機能、交流機能及び教育普及機能</p>		
<職員数> 47 名		

(1) 機関、所在都市の概要、立地の経緯

1) 機関の概要

九州国立博物館（以降、「博物館」と表記。）は、(独) 国立文化財機構九州国立博物館（以降、「独法」と表記。）と福岡県立アジア文化交流センター（以降、「センター」と表記。）が、連携・協力し一体として管理運営を行うという、画期的な事業運営方法を採用している博物館である。両者で協定を結び、独法は主に文化財管理・展示、博物館科学事業、センターは主に広報、交流、教育普及、情報事業を行っている。職員数は、独法 28 名、センター 19 名（平成 23 年 6 月 1 日現在）である。博物館の館長は、独法から任命されているが、副館長は独法とセンターから各 1 人、計 2 名置かれている。また、ボランティアでの参加者も開館当初から積極的に活用されている。

独法とセンターのそれぞれの組織は以下のとおりである。



※副館長は、福岡県立アジア文化交流センター所長が兼務する。

図 1 組織図

資料：九州国立博物館 HP (<http://www.kyuhaku.jp/>)

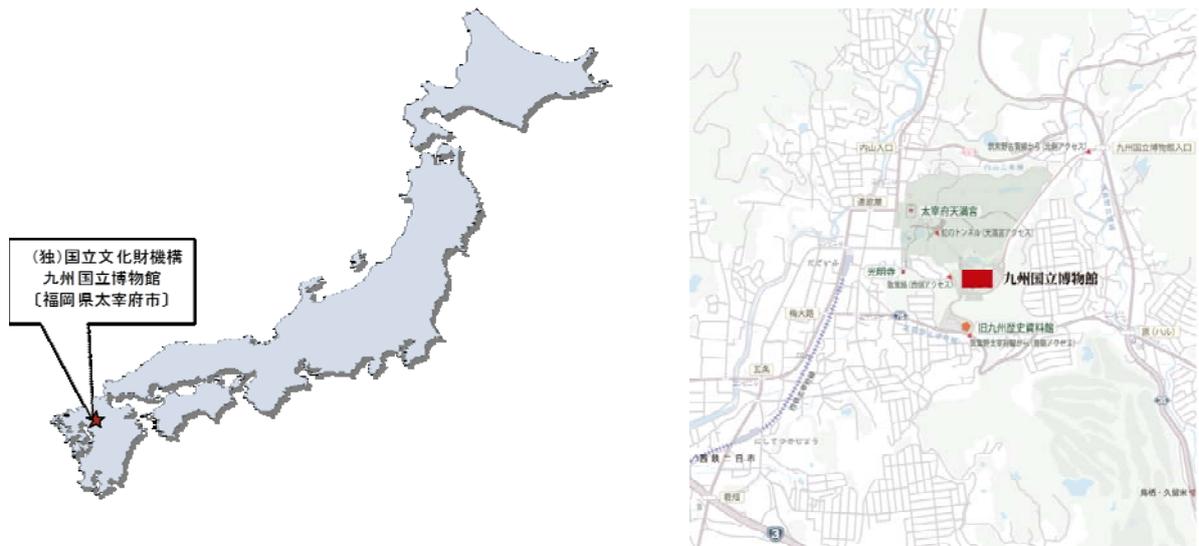


図 2 位置図

出典：九州国立博物館 HP (<http://www.kyuhaku.jp/>)



図 3 外観および内観

2) 所在都市の概要

太宰府市は、福岡市の南東約 16 キロメートルに位置し、面積は 29.58 キロ平方メートルである。

約 1,300 年前、九州全体を治める「大宰府」（オオミコトモチノツカサ）が置かれ、約 500 年の長い間、その役割を果たした。太宰府天満宮ほか、その歴史をしのばせる史跡や名所が存在し、年間約 600 万人の観光客が訪れる観光地である。

また、昭和 30 年に太宰府町と水城村が合併して太宰府町となった当時は、人口が 13,264 人であったが、その後福岡都市圏の膨張、大規模開発による住宅化の進行、大学の立地、交通網の整備などにより人口は急増し、昭和 57 年に全国では 651 番目（県内では 21 番目）の市制を施行した。「史跡や緑にめぐまれた福岡都市圏の住宅都市」として発展している。ベッドタウンとしての一面も持っている。人口は、平成 23 年 1 月末時点で約 7 万人である。

表 1 所在都市の概要

市町村名	人口（人）	面積（k m ² ）	人口密度（人/k m ² ）
福岡県太宰府市	70,490	29.58	2,383.0

資料：人口：平成 22 年国勢調査速報値（総務省）、面積：平成 22 年全国都道府県市区町村別面積調（国土地理院）



図 4 市の位置

出典：第四次太宰府市総合計画後期基本計画

昭和 55 年以降の太宰府市の人口推移をみると、一貫して増加してきている。
また、近年の歳入決算額の推移をみると、自主財源の中心である地方税が増加傾向にある。

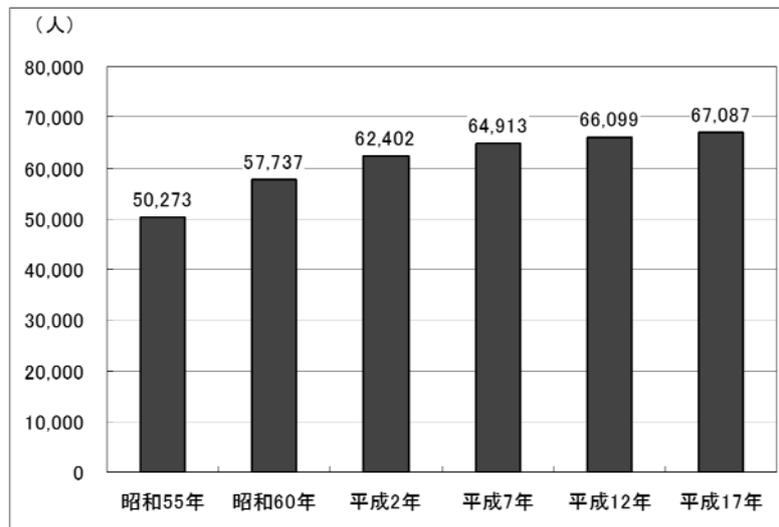


図 5 人口の推移

資料：国勢調査（総務省）

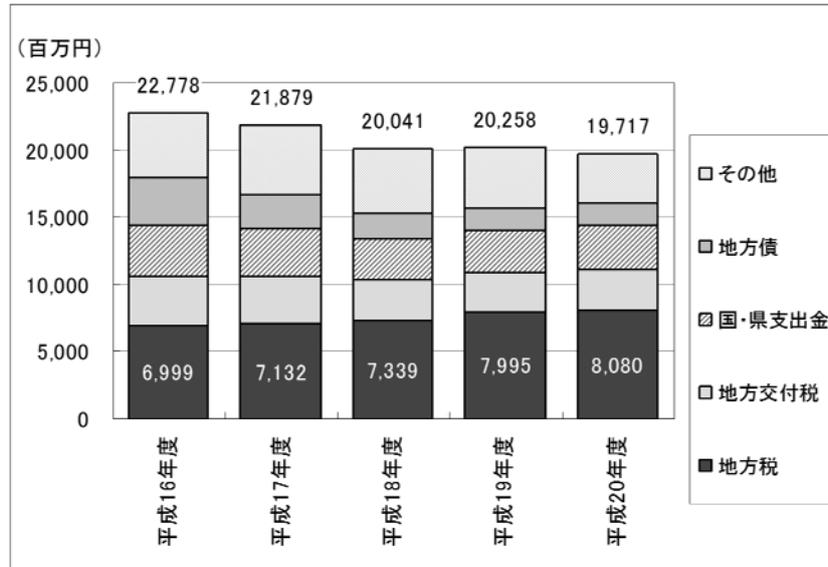


図6 歳入決算額の推移

資料：太宰府市 HP

3) 機関の設置の経緯

そもそも、明治32年に岡倉天心への福岡日日新聞（現西日本新聞社の前身）記者の取材において、天心が「九州国立博物館設置構想」を提唱したと報道されたことが、誘致の歴史の発端として位置づけられている。

組織として誘致活動が始まったのは、昭和43年に、福岡県における官民連携の誘致を目的とした組織として、国立九州博物館設置期成会が発足して以降である（財団法人九州国立博物館振興財団ホームページによる）。

関連して、昭和46年に、太宰府天満宮（西高辻信貞宮司）が、福岡県に博物館建設用地14万㎡を寄贈している（後に福岡県が2万㎡を追加購入し、現在の敷地面積は16万㎡）。

昭和63年に、九州の官民連携組織として、九州国立博物館誘致推進本部が設置された。同年、国会に九州国立博物館設置促進国会議員連盟（二階堂進会長）、福岡県議会に九州国立博物館誘致対策調査特別委員会が発足し、誘致活動は九州全体の動きとなり、本格化した。

平成4年に、同国会議員連盟、九州地方知事会、九経連、九州商工会議所連合会、九州経済同友会が国立博物館の「太宰府」への早期設置を決議、同年九州国立博物館設置促進財団が発足、平成6年より国立博物館早期設置のための募金を開始した。

平成6年、文化庁が「新構想博物館の整備に関する調査研究委員会」を設置。

平成8年、文化庁が候補地を太宰府に決定した。平成11年、国、福岡県、財団の三者による九州国立博物館（仮称）の建設スキームが決定し、平成12年には、同財団の募金活動が全国展開され、平成16年に建設募金の活動が終了、博物館の建物工事費の一部を国へ寄附された。平成17年4月に（独）国立博物館（現国立文化財機構）が博物館を設置。福岡県もセンターを設置して平成17年10月に博物館が開館した。

(2) 特徴的な取り組みの経緯、効果

1) 業務による効果及びシンボル効果

- ・ 平成 21 年度は年間 170 万人の入館者であり、開館以来、隣接する天満宮との相乗効果による太宰府市への入込客への効果が大きい。
- ・ 誘致にあたっては九州経済連合会、福岡県、太宰府市等のみならず市民の積極的な活動が原動力となった。
- ・ 平成 17～19 年度 3 年間の地域経済への波及効果は約 62 億円（太宰府市推計）と推計されており、地域経済への効果が大きい。
- ・ 集客増加による駐車場利用増により、税収（歴史と文化の環境税：法定外普通税）が増加、これを街づくりや集客増に伴う交通誘導・整理経費に充当することで、更なる効果の増大に貢献している。

<博物館の担当者の声>

- ・ 「日本文化の形成をアジア史的観点から捉える」を博物館のコンセプトに置いている。
- ・ アジアからの観光客も多く、地域の中核的な観光資源にもなり得る。

<太宰府市の担当者の声>

- ・ 太宰府天満宮の集客力を増強（ピークの平準化、参道立地店舗の新陳代謝（建替えや新規出店等の）促進）するとともに、滞留時間の増加による賑わいの創出に効果があった。
- ・ 太宰府天満宮への集客の増大効果は大きい。法定外普通税である有料駐車場税「歴史と文化の環境税」の税額は順調に伸びており、財政への寄与も大きい。
- ・ 地元主体で「九州国立博物館を愛する会」を組織、国博通りの清掃活動等やボランティアガイド等を行っている。
- ・ 天満宮や参道事業者は以前から積極・自主的に街づくりを実践してきたが、博物館の設置は街づくりに大きく貢献している。
- ・ 太宰府には天満宮以外にも水城などの史跡が周辺に多く、その管理・維持は課題。昨年度より、寄付の受け入れ基金として、太宰府古都・みらい基金を設置。特別史跡水城跡の維持管理や歴史の散歩道の再整備など、歴史的建築物の保存・整備・活用、市民遺産の保存活動支援を行うこととしている。

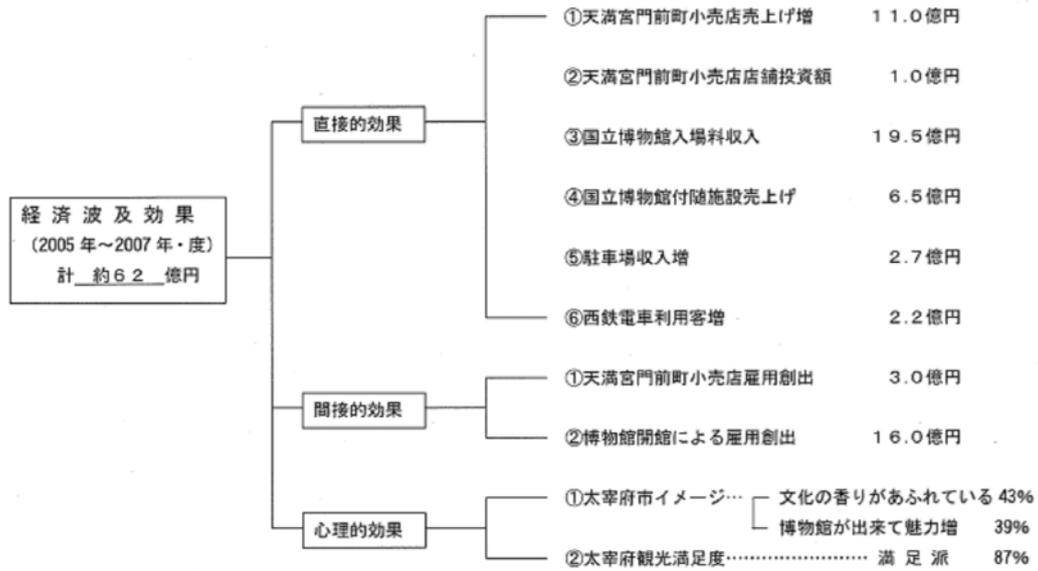


図7 開館による経済効果推計値

出典：「九州国立博物館開館により地域経済への波及効果測定・分析」平成21年 太宰府市

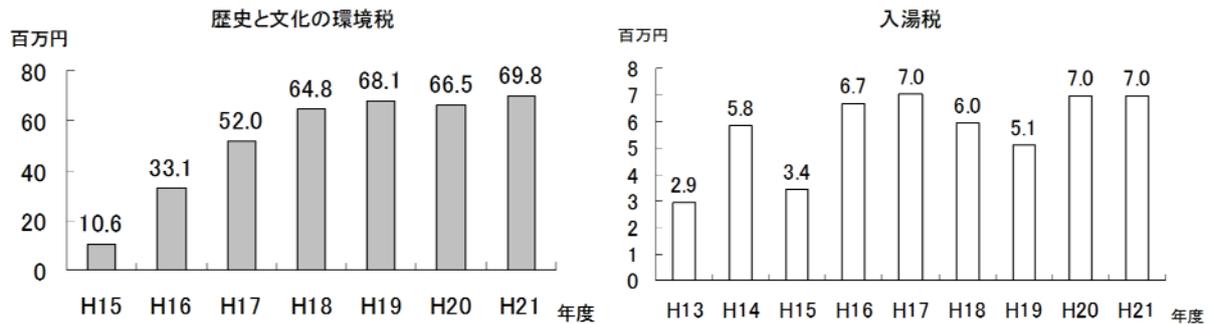


図8 税収の推移

資料：太宰府市資料

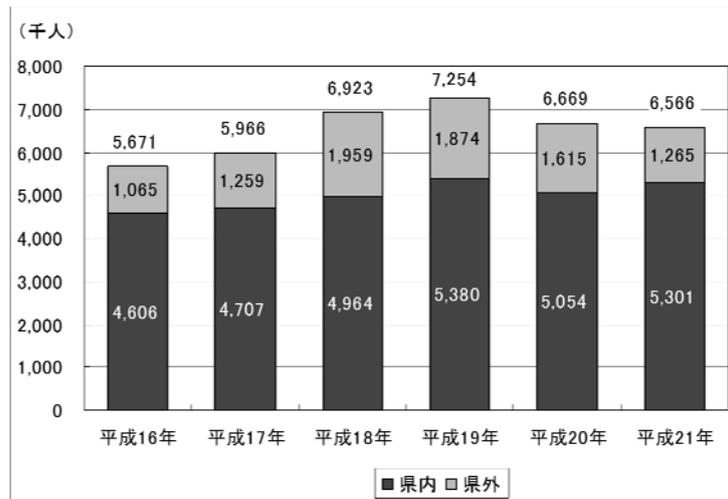


図9 入込み客数の推移 (太宰府市)

資料：福岡県観光入込客推計調査 (福岡県)

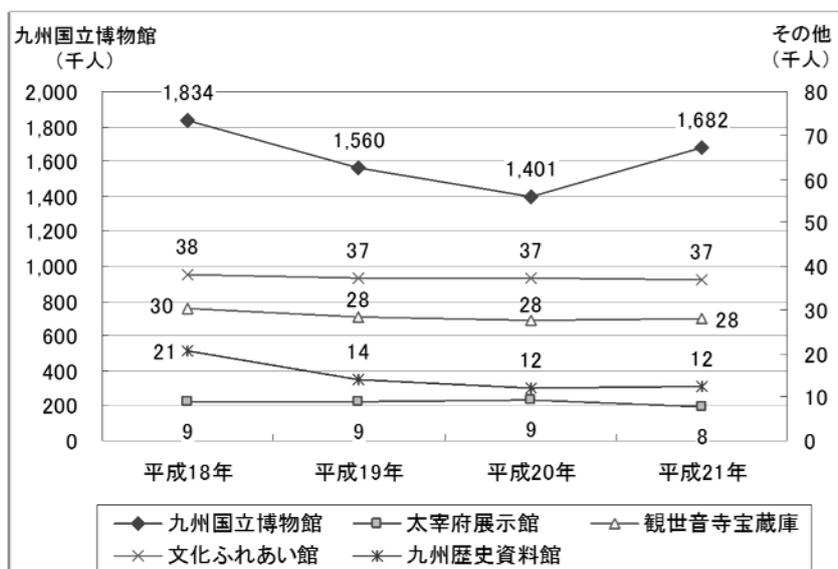


図 10 施設別利用状況の推移

資料：福岡県観光入込客推計調査（福岡県）

2) 施設活用による効果

- ・ 博物館を活かしたまちづくりを、市の戦略プロジェクトの第一に位置づけている。
- ・ 観光ボランティアガイドへ、福岡市内を中心に申し込みが多数ある。

<博物館の担当者の声>

- ・ 一階エントランスは、空間を活かした多様なイベントの実施も可能であり、ミニコンサートの実施など広く市民に活用いただいている。また子どもの体験型教育普及施設「あじっば」も人気が高く利用者も多い。
- ・ 自家用車による来館が多く、多数の来館者が見込める特別展の開期中には交通渋滞が発生することも多いため、市等の関係機関と連携して対策を講じている。

<太宰府市の担当者の声>

- ・ 中学校以上大学でも、授業として博物館のバックヤードツアーのような見学・視察会が開催されている。
- ・ 市の将来像である「歴史とみどり豊かな文化のまち」の実現に向け、市では特性を活かしたまちづくりを市民との協働により展開。
- ・ 参道の一本裏手に駅から国博にアクセスする街路がある。国博通りと言う。この街路整備事業に、市は8-9億円拠出した。

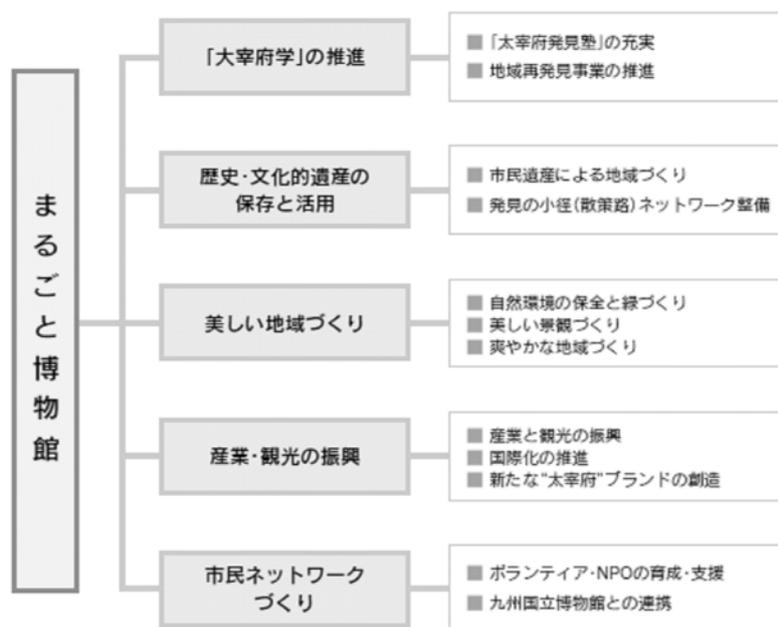


図 11 太宰府市戦略プロジェクト「まるごと博物館」推進プロジェクト概要

出典：第四次太宰府市総合計画後期基本計画

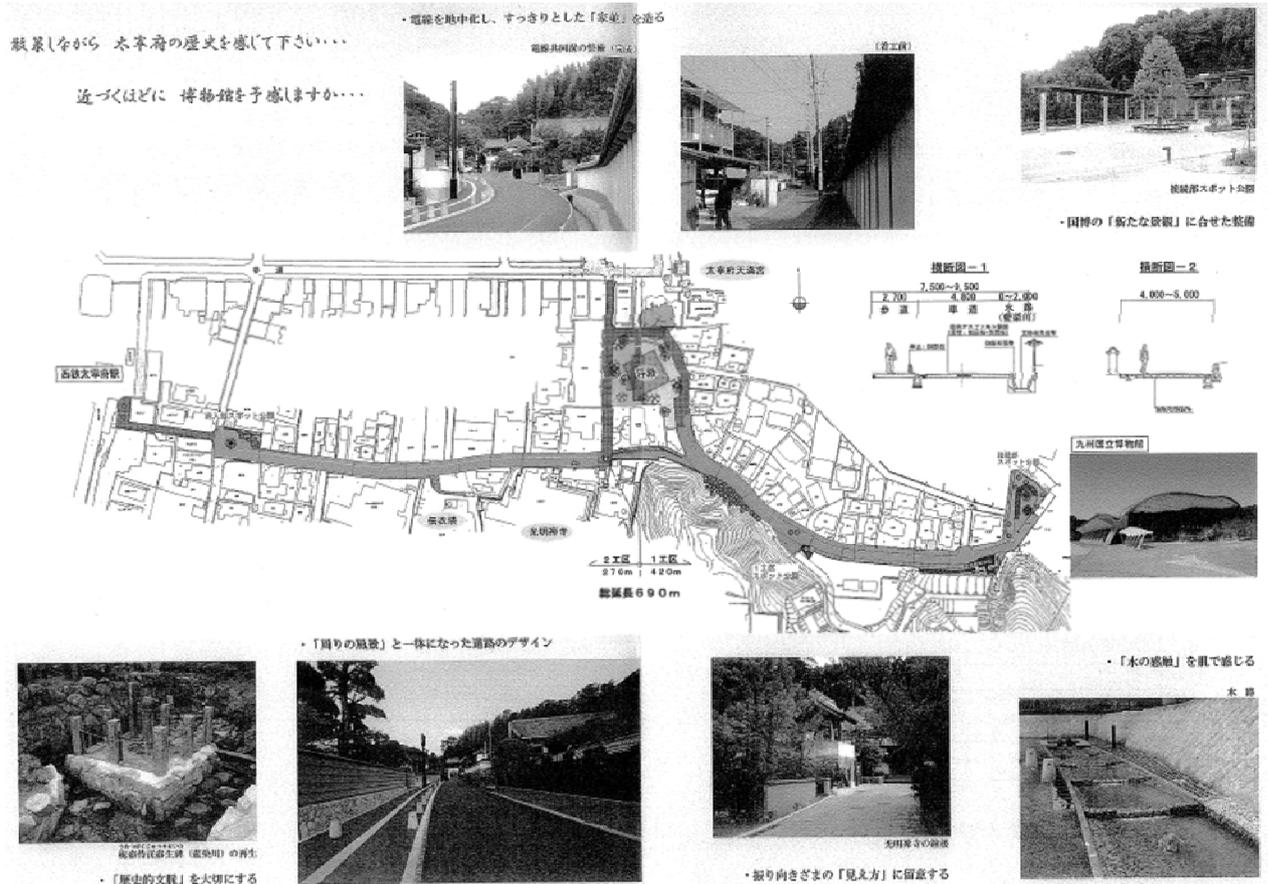


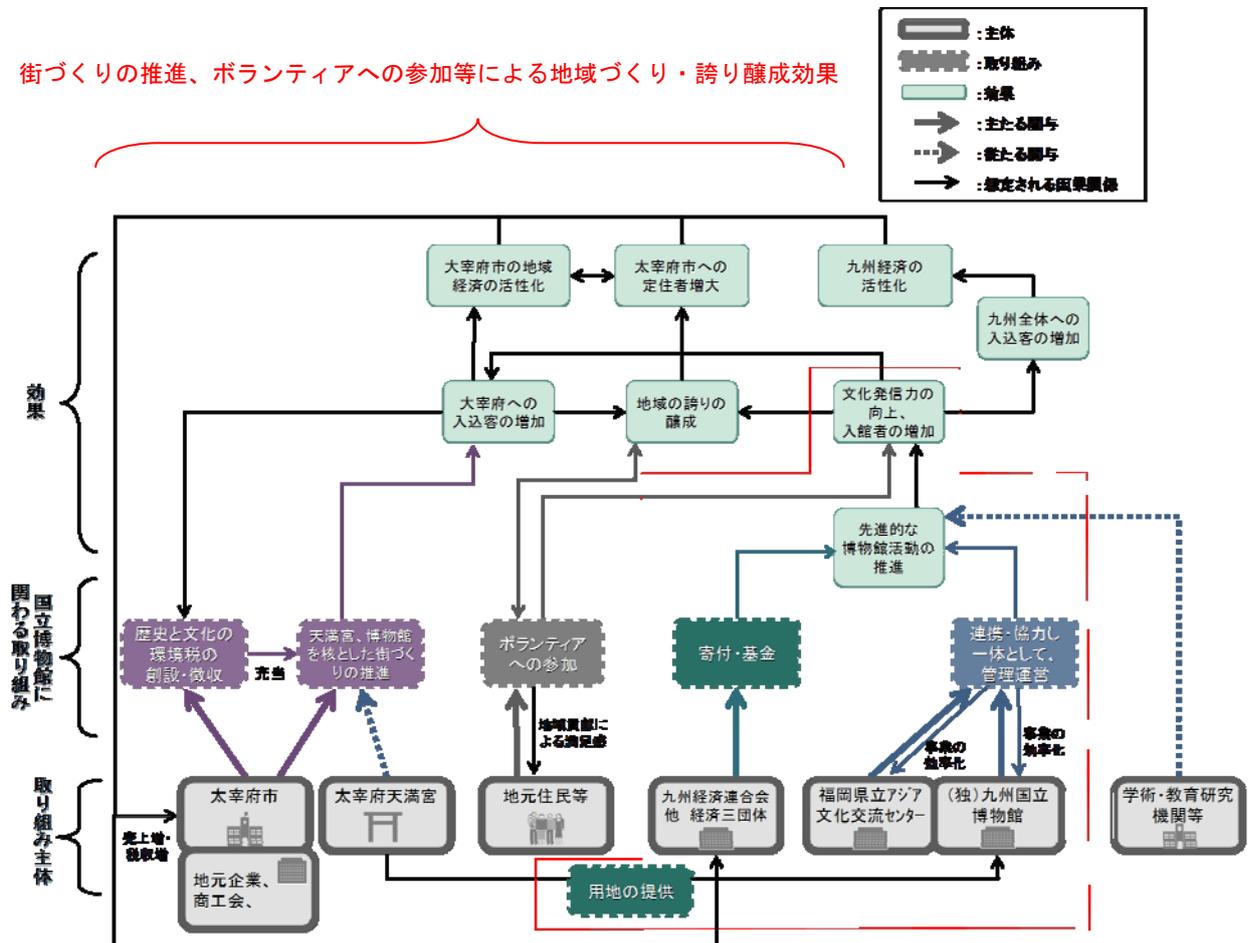
図 12 国博通りの状況と整備事業の概要

出典：下図は「散策路」整備事業の概要 平成 17 年 太宰府市

取り組みとその効果相互に想定される関連性

((独) 国立文化財機構九州国立博物館、福岡県、太宰府市)

街づくりの推進、ボランティアへの参加等による地域づくり・誇り醸成効果



県との連携・協力した管理運営、寄付・基金等による文化発信力向上効果